

【評価実施概要】

事業所番号	第0170401129		
法人名	株式会社ハウジングいとう		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームこころ		
所在地	札幌市西区発寒4条2丁目3-12 (電話)011-669-1222		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉サービス評価機構Kネット		
	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年5月24日	評価確定日	平成21年6月12日

【情報提供票より】(21年4月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	18人, 非常勤 1人, 常勤換算0.075人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート一部木造増築		
	5階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有() 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(4月21日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名	
要介護1		4	要介護2		6	
要介護3		2	要介護4		1	
要介護5		3	要支援2			
年齢	平均	81歳	最低	63歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	静和記念病院、琴似ロイヤル病院、札幌みどりのクリニック、ラビット歯科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅街の5階建マンションの1~2階を改築している。地域の人々の交流の中で利用者には、一人ひとりの個性を理解し、大切にすることをモットーに利用者本位の生活を重視したケアを提供している。安心・満足を覚えながらゆったりと暮らしている。ホーム内は清掃が行き届いている。管理者は質の高いケア提供のために職員育成に力を注ぎ、また職員個々の長所を良く理解し運営に活かしている。職員は相互の信頼の上のびのびとケアに取り組んでいる。利用者や家族の思いに常に耳を傾ける謙虚な姿勢が伺える。利用者の得意なことを尊重し、畑仕事、園芸など生活に結びついた役割を果たす取り組みがなされている。全体に脚力の低下傾向が見られることから、運動機材の導入を取り入れ、機能低下防止への取り組みをしている。また洗面台も身体状況に合わせた昇降式など生活機能を重視している。なお、職員も新たな運営理念を基本にしっかりした支援に努めている。家族的雰囲気は漂い穏やかに過ごせる環境が整っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で課題とした項目である外部の職員研修の参加は、ホームとして取り組みが進められ、研修後の報告も行われ、利用者のサービス向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を全職員で確認し、個々の職員が自己評価し、それをユニットごとに現状、把握、今後の取り組みなどを話し合い、総括する形でホーム全体の自己評価にまとめられた。この取り組みを課題の把握とサービスの向上に活かす機会として捉えており、更なる取り組みを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、町内会、地域包括支援センター、家族、利用者などの出席をもって、3カ月毎に開催されている。運営推進会議ではホーム内の利用者の様子、行事予定、ヒヤリハット報告や事故報告、外部評価取り組み状況等が熱心に話し合われて、ホームへの理解を深め、家族や地域住民から意見を引き出すなど、本音で話し合われている様子など議事録から窺われる。ホームと地域の調整役としてこの運営推進会議を活用し、地域に開かれたホームとなっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	1階玄関入り口に声の箱を置いている。家族来訪時には職員から積極的に声をかけ、利用者の健康状態や生活状況、また家族の意向や不満を引き出すよう努めている。なお、運営推進会議を通してニーズの把握に努めている。出された意見や要望は職員間で話し合い、ホームの運営や利用者のサービスの向上に反映されている。なお、ホーム便りについては定期的発行を期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で行う清掃や祭りなどの行事などホームの職員とともに利用者が積極的に参加している。買い物や散歩など日常生活を通じて地域の人とも顔馴染みになり交流を深めている。ホームの行事には、蕎麦の実演等のボランティアを受け入れ、利用者の楽しみの一つにもなっている。町内会等地域との関わりに広がりが見られる。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p style="text-align: center;">. 理念に基づく運営</p> <p style="text-align: center;">1. 理念と共有</p>					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>今までの理念を見直し、職員全員で話し合い、「住み慣れた地域の皆さんに見守られながら、地域の一員としての役割を果たしていきます・・・」など地域との関わりを新たな理念に取り入れるなどホーム独自の理念を作り上げている。</p>		
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者と職員は理念を常に認識できるように玄関や職員休憩室、居間などホームの見やすいところに掲示し、日常的に理念を共有している。なお、理念が利用者の日々の生活の中に反映できているかを意識しながら介護の実践に取り組んでいる。</p>		
<p style="text-align: center;">2. 地域との支えあい</p>					
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域で行われるゴミの収集などの清掃活動、夏祭り、芸能発表会、作品展示会等の行事や新年懇親会等の祭事などに利用者や職員が積極的に地域に参加し、地域の方との交流が行えるよう努めている。また裏庭の畑やホームの玄関、「ゴミの日」(ゴミの収集場所ホームで設置)など挨拶を交えながら地域の人々と交流を図っている。</p>		
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者・職員は、自己評価や外部評価を実施する意義を理解し、前回評価の改善課題は早期に改善され、日々のケアに組み込まれている。本年度の自己評価も職員とともに取り組んでいる。運営推進会議に評価結果が報告されており、この評価結果を誰でも自由に見られるようにホームの玄関入口に掲示している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、利用者代表、家族代表、町内会長、地域包括支援センター、管理者の参加を得ながら定期的開催されており、ヒヤリハット報告、外部評価結果の報告、利用者の生活状況等について話し合わせ、意見や質問が活発に行われている様子が議事録からも窺われる。この会議の結果は家族にも議事録として送付している。またユニット会議にも報告され、サービスの向上に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、区の管理者会議や関係会議に参加し、他ホームとの意見交換や情報収集を行っている。市担当者とグループホームでの受入れ体制などの相談や情報収集を行っている。また地域包括支援センターとも積極的に連携体制をとっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には利用者の生活・健康・通院状況を報告し、状態によって電話にて報告している。またホーム便りも家族に送付している。利用者の金銭出納の明細書や行事の写真も送付している。なお、昨年度はホーム便りが定期的に発行できていなかった。</p>		<p>利用者の状況やホームの運営状況などをお知らせする手段として、ホーム便りは重要であり、作成に対して職員の重荷にならないように工夫するなど定期的な発行を期待する。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から家族との交流を図り、家族から意見や苦情が言いやすいように職員は家族の面会時に積極的に声をかけることを心がけている。玄関入り口には声の箱が設置されている。家族から意見があったときはその都度状況を説明し、また迅速に話し合いがもたれケアに反映している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が異動等により交代する場合は、利用者の特徴や状況についての引継ぎを十分行い、周りの職員がカバーしながら利用者への影響が出ないように努めている。特に1階、2階の異動に関しては、職員の介護力のバランスなどに配慮した職員配置をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人材育成の重要性を認識し、外部研修にできるだけ多くの職員が参加できるよう配慮している。研修後はホーム内での学習会や研修報告が実施されており、参加職員が受身にならないようにしている。また内部研修にも事例学習などに力を入れている。介護福祉士資格取得に関する書籍を購入し、職員に対しての学習の機会を提供している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、区内のグループホーム管理者連絡会議や関連会議に出席し他のグループホーム関係者とも交流しながら情報収集や意見交換を積極的に行っている。また学習会にも職員が参加し、学びや交流を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の際には、利用者や家族が安心して納得できるよう適切なサービス開始の調整を本人、家族と相談しながら行っている。なお、ホームに馴染むために、事前に家族と本人一緒の訪問をすすめている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に生活して気軽に話し合い、ともに支えあう関係を目標としている。利用者から料理の方法や盛り付け、生活の知恵や昔話、体験談などについて教わるなど利用者から学ぶ姿勢を大切にしている。特に季節の食べ物や郷土料理を一緒に作りながら、共に支えあう関係を築いている。特に利用者に孤立感を抱かせないように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中でコミュニケーションを大切にしている。利用者一人ひとりの思いや希望を日々の言動や表情から思いや願いを汲み取り、できない場合には家族からの情報やスタッフでの話し合いなど検討するようにしている。また家族からも入居前からの暮らしの様子を聞いたりするなどセンター方式を採用している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を活用し、利用者の現在の状況や家族からの希望や思い、意見を聞き、また職員からの日々の生活からの気づきなどの情報を踏まえ、利用者にとってよりよい生活とは何か、職員で話し合いながら利用者の立場での介護計画を作成している。最終的には介護計画を家族に確認している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、基本的に3ヵ月期間毎に応じて見直しを行っている。またその間に利用者の日常生活で状態の変化が生じたときは、その都度、本人、家族と話し合い、必要に応じてかかりつけ医とも相談しながら現状に即した見直しや変更を職員全員で話し合っている。</p>		
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>定期受診や緊急受診の送迎、散歩や買い物外出の付き添いなど、家族と調整しながらホームの機能性を活かした柔軟な支援を実践している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望に応じて、かかりつけ医または協力医療機関に早めに受診するようにしており、職員送迎も行いながら、家族とも連携し、家族も職員もお互いに受診の結果を連絡し合うなど利用者が必要な医療を受けられるように支援している。医療連携として、看護師訪問による健康管理も行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者の重度化や終末期における指針を作成しており、入居時に本人、家族に説明して同意をもらっている。毎週、看護師が利用者の健康状態の確認を行っており、重度化した時には改めて家族や関係者と方針の確認と共有を行うようにしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者への言葉かけや支援は、一人ひとりの誇りや羞恥心に配慮し、表情も見ながら日々のケアを行なっている。特に排泄介助の際は周囲の方に気づかれないようにさりげない言葉かけに配慮している。また個人記録は利用者の目の届かないところに保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースに合わせ、買い物や散歩などを行っている。大まかな一日の流れは設定されているが、利用者の生活歴や体調、そのときの気分を考慮し、その人らしい生活を送れるよう支援している。特に毎日のように同一者を優先することのないように、利用者全員のバランスを考えながら支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
や					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事を活かして一緒に買い物へ行ったり、調理の準備や配膳の片付けなどを職員と協力して行っている。また食事の際には職員と一緒に同席して同じ食事を取りながら食材や料理を話題に会話したり、食事を楽しめる雰囲気づくりに心がけている。同席して食事をともにしたが、会話も弾み笑い声を交えながら楽しく食事を摂る場面が見られた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日以外に希望があればそれ以外にも対応している。利用者一人ひとりの習慣やペースで入浴ができるよう対応している。特に同性介助は希望者に合わせている。なお入りたがらない人にはタイミングをみながら、誘いの声かけ等の働きかけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることを活かせるように、職員と一緒に食事の準備や料理作り、食器洗い、また新聞や郵便物受け取り、カレンダーめくり、カーテン閉め、洗濯物の干したたみ、ソーキン縫い、裏庭の畑の手入れ、草むしり等を行いながら楽しみや役割を利用者が持てるよう支援している。訪問時には職員と一緒に楽しそうに食事の準備をしている場面などが見られた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の希望に合わせて、ホーム周辺の公園散歩、買い物やドライブ、外食、戸外の行事、また家族同伴のバスレク等の外出支援を行っている。裏庭の畑には水やりや草取り、収穫作業など楽しみを持てるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しているが、建物の構造上玄関は死角に当たるため、家族の了解を得て施錠している。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する仕草の時には、さりげない声かけや見守りを行っている。また利用者が外に出るときは付き添うようにしている。居室は人が入ると不安要素の方には本人、家族の了解を得て個別に鍵を設置している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、年2回定期的な避難訓練と消火器の使用方法的訓練を入居者とともに実施している。特に職員に対しては、ミニ非難訓練を毎月自主的に実施している。地域に非難場所の確保や緊急時に駆けつける近隣職員をも確保している。また年1回消防署から夜間体制や避難誘導に対しての助言をもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の食事と水分の摂取量を記録し把握している。不足した際の確認や対応に役立っている。利用者の嚥下や飲み込み、摂取意欲低下の方には、嗜好や状態に応じて調理方法も工夫がされている。昼食を一緒にしたが、素材の味を生かした工夫により、全員食事を摂取されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や採光などその時々で不快な音や光を感じさせないように配慮している。貼り絵やカレンダーは利用者とともに手作りで作成し、作品として居間等に掲示している。ホーム内は清潔でゆったりと過ごせる空間となっている。また温度と湿度、光、音なども適宜調節している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使いなれた馴染みの家具、時計や小物、家族の写真などの装飾品、裁縫道具や生活用品、仏壇などが持ちこまれ、家庭の延長的雰囲気の中、利用者の生活スタイルに合わせた居室づくりを行っており、各部屋に個性が感じられた。		

 は、重点項目。